



# いわて生協 復興支援活動ニュース

2018年3月号

2018年2月27日発行

いわて生協 組合員活動チーム  
電話：019-603-8299  
FAX：019-687-1117

## ボランティア交流会

震災後、仮設住宅の集会所を中心に行ってきた「ふれあいサロン」。その運営に関わってくれたボランティアさんの交流会を行い、日々の活動への感謝と今後の活動について確認していきます。

- ▶ 盛岡地域は、2月19日アイーナで20名の参加で行いました。いわて生協の支援活動の報告や今後の仮設住宅の計画などを話し合いました。  
「毎月沿岸にサロンに出かけていくことが張り合いになっていました」「何か私にできることがあれば今後もお手伝いします」などボランティアさんからの嬉しい声がだされました。
- ▶ 宮古地域は、2月27日に開催します。  
釜石・一関・花巻・北上地域でも随時開催いたします。  
別紙の交流会のお知らせをご覧ください是非参加をお願いします。



盛岡地域でのボランティア交流会の様子



## 支援活動だより 「支援活動のバックアップ」

けせんコープ理事 佐々木憲江

気仙地区に支援活動に来てくれている歌手の奥野ひかるさんは、震災後、仮設住宅を訪問してのライブ活動を800回以上も行っていきます。現在は東北だけではなく、熊本の地震で被災した方々のためにも、慰問活動をしています。奥野さんの大阪弁のトークで参加者は笑顔になり、歌には元気をもらい癒されています。

そんな奥野さんですが、慰問ライブをしていて「自分は役に立っていないのではないかな？やめてしまおうか。」と思った時があったそうです。でも、コンサートを聞いた方からの「家族を失って毎日死ぬ事を考えていたけど、ひかるちゃんの歌を聞いて悩むのがバカバカしくなりました。」とか「仮設住宅に住もうと思っても住めるものではないから、住める自分は幸せ。楽しまなくっちゃね。」という前向きな言葉を聞いて、「仮設住宅がなくなるまでがんばる!!」と思えたそうです。

現在も慰問ライブを自費で続けている奥野さん。けせんコープでは、「奥野さんに仕事として来てもらおう」と単独ライブを企画したり、生協まつりに呼んだりしています。

このように、「支援活動をしている方々を支援する」事も、私達ができる一つの支援の形だと思っています。支援している方を応援していく事で、支援の輪も広がり人との絆も強くなっていくのではないのでしょうか。いわて生協が2016年度から始めた「被災地支援活動助成金」は正にそういう活動です。2017年度も13団体への支援が決定し、その活動を応援することができます。

今年の3月で、震災から7年を迎えようとしています。今日まで多くの方々・団体が支援活動を行ってきました。支援活動に関わってきた方々には頭が下がる思いです。そして現在も支援を継続している方々に感謝・感謝です。

これからも引き続き、支援をしている方々をバックアップし、復興の一助になればと思っています。



## ふれあいサロン



## 今月のサロンの様子と ボランティアの声



<大槌町 大槌第5仮設住宅>

<陸前高田市 サンビレッジ>



みずき団子をみんなで作りました。  
カラフルな団子、かわいい！



ひなまつりカードをみんなで作りました。  
色とりどりのおひなさまができました。



始めからおしゃべりに花が咲き、震災前の高田町の街並みの話を声高く楽しく懐かしんでいました。その後、カルタやカラオケで遊び、1人の方が「オラいつも1人で、1日外さもないし、話もしてない。ここさ来るの楽しみだ」と話すと「ンダンダ、同じだ」とみなさんも。「話っこまだあるから」と今日も私たちを見送ってくれました。(陸前高田市 佐野仮設住宅)

何回か続けて「つるし雛」を作っています。みなさんは、サロン以外の毎日集会所に来て、つるし雛をたくさん作っていたようです。早速、5個位ずつひもにつるしてみました。とても素敵で春が近いような、そして気持ちが晴れやかになりました。

(大槌町 生井沢仮設住宅)

## 食の支援

<ふれあいサロン>ボランティア19人が  
6会場で食の支援を行いました(43人参加)



<陸前高田市 矢作中学校仮設住宅>



みんなで手分けして切ると早くできるね！

<生協料理サロン>

宮古市の近内公営住宅の集会所で2月16日に生協料理サロンを行いました。

参加者は7名とスタッフ2名と社協さん1名。今年に入ってから集会所での企画は初めてとのことで、会話も弾み皆様に喜んでいただけました。



## キット作り

●●● キット作りありがとう ●●●

- ・ 干支の犬  
(ちょボラくらぶ花巻、一関ふれあいサロン応援隊、盛岡北松園東こ〜ぶ委員会)
- ・ フリース手袋(釜石松倉こ〜ぶ委員会)
- ・ 布バッグ(大槌ちょボラ)
- ・ ボックスティッシュカバー(盛岡南太田こ〜ぶ委員会)
- ・ パックン小物入れ  
(盛岡北高松南と高松北こ〜ぶ委員会合同、個人のみなさん)

●●● キットの在庫情報 ●●●

- ・ ハギレとフェルトの小さい小物入れ(大・小)
- ・ メガネケース
- ・ 葉っぱのコースター
- ・ 牛乳パックのカゴ
- ・ ランチョンマット
- ・ 鍋しき
- ・ 布バッグ
- など

※詳しくは事務局までお問い合わせください

2018年度も復興支援のためのボランティアバスを運行します。

## 田老町漁協「わかめ加工作業」応援

- ◆日にち 3月25日(日)、3月31日(土)、4月1日(日)の3回。
- ◆内容 田老町漁協で、塩蔵加工されたわかめを計量、箱詰め(12キロ程度)する作業
- ◆時間 介護・福祉センター“あい” 6:30出発、17:00帰着
- ◆持ち物 塩や水がついてもいい服装、長靴、新品のゴム手袋、昼食・飲料

いわて生協の産直「真崎わかめ」の生産先です。わかめの収穫は短期間、漁協周辺に家がなく  
なり、作業する人が少なくなりましたので、2014年度よりバスボラで応援をしています。

- お申し込みはコープボランティアセンターへお電話下さい。019-603-8299へ。

3月分は2017年度のボランティア保険ですが、4月1日からは2018年度分への切り替えが必要です。  
4月からの保険の金額は、天災A 500円、天災B 710円です(昨年と同額です)



### ♥ ハートのタペストリープロジェクト

3月11日に店舗で募金活動を行います。その時に募金をしてくださった方や想いのある方にハートのシールを渡し、名前を書いて布に貼ってタペストリーを作ります。このタペストリーは、5月に開催される沿岸のコープ総代会で展示されます。そのハートのシール作りをたくさんのボランティアさんに作っていただきました。

- ▶ 3月11日は、「みんな忘れていないよ!」という思いを貼りにお店に行きましょう!

## 支援を ありがとう



### お菓子のご支援

- ・「コープいしかわ」さん
- ・「生協しまね」さん
- ・「ユーコープしずおか」さん
- ・「コープみらい」さん

### キット・布のご支援

- ・「コープえひめ」さん
- ・「おおさかパルコープ」さん

### 現地でのご支援

- ・1/26(金)大槌  
「医療生協さいたま」さん

## トピックス

大阪市の生協・おおさかパルコープの林輝泰さんは、震災直後から遠野市に単身で移り住み、関西と本県の絆をつなぐ役割を担っていただきました。

震災当初はパルコープのトラックで沿岸に物資を運搬。関西からボランティアでやって来る生協職員の調整にも奔走。

12年度からは組合員による「復興応援バス」を運行。関西で被災地に心を寄せる人が足を運び、いわて生協と共に花壇整備やお茶会に参加するための調整をしていただきました。

今年3月で家族が待つ大阪に戻られます。長い間のご支援本当にありがとうございました。

